

平成21年度第1回津山図書館協議会【概要報告】

日時 平成21年6月23日(火)午後1時30分～15時30分

場所 津山市立図書館 集会室

出席 石井委員 池内委員 小椋委員 神田委員 児玉委員 高橋委員
高柳委員 武川栄委員 松浦委員 宮本委員

欠席 井上美恵子委員 井上美咲子委員 内海委員 武川広子委員 中岡委員
(委員長 副委員長) 五十音順

事務局 津山市立図書館

議事

- 1 図書館と視聴覚ライブラリーの活動状況、利用状況について
- 2 図書館の管理運営検討委員会答申書について
- 3 図書館の蔵書計画について
- 4 図書館協議会の協議内容公開について

図書館と視聴覚ライブラリーの活動状況、利用状況について

(1) 図書館の現状について

- ・平成20年度津山市立図書館の活動について 事務局報告(資料)
- ・視聴覚ライブラリーの利用状況について 事務局報告

館長 昨年度、図書館は開館30周年を迎えたが、この30年間、図書館の立上げから、新館建築、アルネへの入居と利用促進への取組みなど、図書館の整備に努めてきた。一昨年度からの行政改革の流れで指定管理者制度導入も検討され、新たな図書館のあり方を模索しつつ、市民ニーズにあった事業展開を考えている。

視聴覚ライブラリーは図書館の視聴覚資料とは別の資料に社会教育団体に上映ができるビデオ、DVD、上映に必要な機材などをそろえている。

委員 市民ニーズを把握して行事などの展開をしていくと報告されたが、図書館がどのような方針で図書館サービスを行っていくのかももう少し具体的に示す必要があるのでは。以前に寄贈本を持って来たが職員の対応が非常に悪く、もう図書館には寄贈したくないと思った。

委員 選書の基準を明らかにするのも難しいと思うがそれぞれの図書館が特色を持った運営をおこなっていると思う。津山市立図書館もそういう時期にきているのは。新刊書で利用や予約の集中する本は市民が購入して読

み終わった本の寄贈を呼びかけてみてはどうか。

委員 寄贈する場合も本の扱い方など図書館と市民双方でやり取りが出来れば
いいと思う。

委員 図書館の目標は市民の多様な学習要求に応えることだと思う。レファレンス
件数が減っているが、図書館のさまざまな行事などの取組みの主旨が
市民に伝わっていないのでは。

館長 レファレンスは図書館の職員が行う人的支援の中心だと思っている。

委員 レファレンス件数が減っているのはインターネットを利用する市民が増
えているのも根底にあるのでは。簡単なことは検索で調べることができる。

委員 基本的にレファレンスは利用者側から出てくるものなので、図書館から
働きかけるだけで増えるものでもないように思う。

館長 さらに利用の働きかけを進めていきたい。

(2) 図書館の管理運営検討委員会答申書について (答申書 資料)

館長 図書館の目標は「人づくり」である。継続した図書館運営をしないと、
この目標は達成できないものと考えている。

の にあるＩＣシステム導入と自動貸出についてはＩＣ導入により機械
でできることは機械に、人がかかわる人的な援助にシフトしていきたい。
経費の削減について、休館日を増やしたら経費は削減できるのはわかって
いるが、まだ検討している途中である。

にある指定管理の導入については見合わせる方向性をだしていただいで
いるので、この方向に進めていければと思う。

のボランティアや市民参加についても待っているだけでなく生涯学習課
や学校のボランティア育成などと連携しながら進めていきたい。

経費の削減については、職員の人件費によるところが大きい。休館を増や
したとしても求められるのは人件費の削減と施設管理費だろう。

委員 答申書に対して図書館の考え方を文書でまとめる予定があるか。

館長 答申書をうけてこのように決定しました、という報告は必ず必要と思う。

委員 行革をして効率化を図って、その結果としての経費削減であって、その
逆ではない。指定管理に反対しているのも高校生や市民の居場所がなくな
ることが問題であって、市として落としてはいけないところでは。

館長 休館日を増やしても施設管理費の削減には限界がある。資料費を切るこ
とはできないと考えている。サービスの低下を招かず、人件費の削減がで
きないか検討している。

委員 自動貸出機の導入で人件費の削減があったとして検討委員会では人件費
削減のために導入するという話ではなかった。サービスの向上が目的だっ

たはずだ。

館長 事務効率化による人件費の削減である。

副館長 ICシステム導入による利便性の向上をめざしているが、財源を問われたときに人件費を出さざるを得なかった。今まで、人がやっていたところを機械がするので職員の削減に対応できるという判断をした。

委員 人が減って、レファレンスに対応できるのか。それぞれの部署がやっていきたい事を市にきちんと言っていくことができないのか。NPOやボランティアに頼るような状況ではだめだというべきではないか。

館長 図書館の本来業務は職員が行い、絵本の読み聞かせや布絵本作成など幅を広げる行事をボランティアにお願いしている。

委員 答申をうけて図書館としての対応の仕方を協議会に示していただきたい。協議会の論議がすすまない。

館長 まとめさせていただく。

(3) 蔵書計画について

館長 文部科学省の「望ましい基準」を数値目標に挙げ、人口推計に合わせて策定した。

委員 図書館は利益を生み出すような部署ではなく、効果が問われる場所ではない。

委員 図書館は現在がけっぶちに立っていると理解しているが、図書館の頑張りに期待したい。45万冊の収蔵は可能か。

館長 収蔵庫の計画を立てる必要もあって、蔵書計画を策定した。

(4) 図書館協議会の情報の開示について

館長 前回の協議会で図書館協議会の意見書を図書館のホームページに掲載することにした。協議会の名簿や議事の掲載についてどうするか、ご協議いただきたい。情報の開示は了承いただけるか。

全員 名簿の開示と会議の内容を公開することについて了承する。

閉会

閉会挨拶(略)